
南信州における体験型観光の取り組み

平成22年11月12日

(株)南信州観光公社

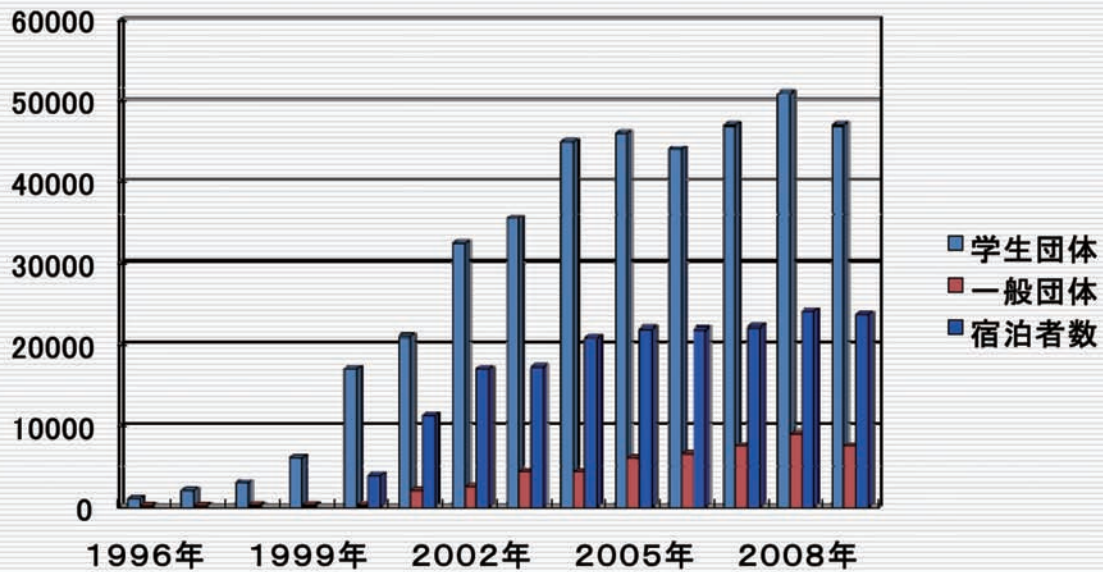
1

体験型観光の取り組みから南信州観光公社の設立まで

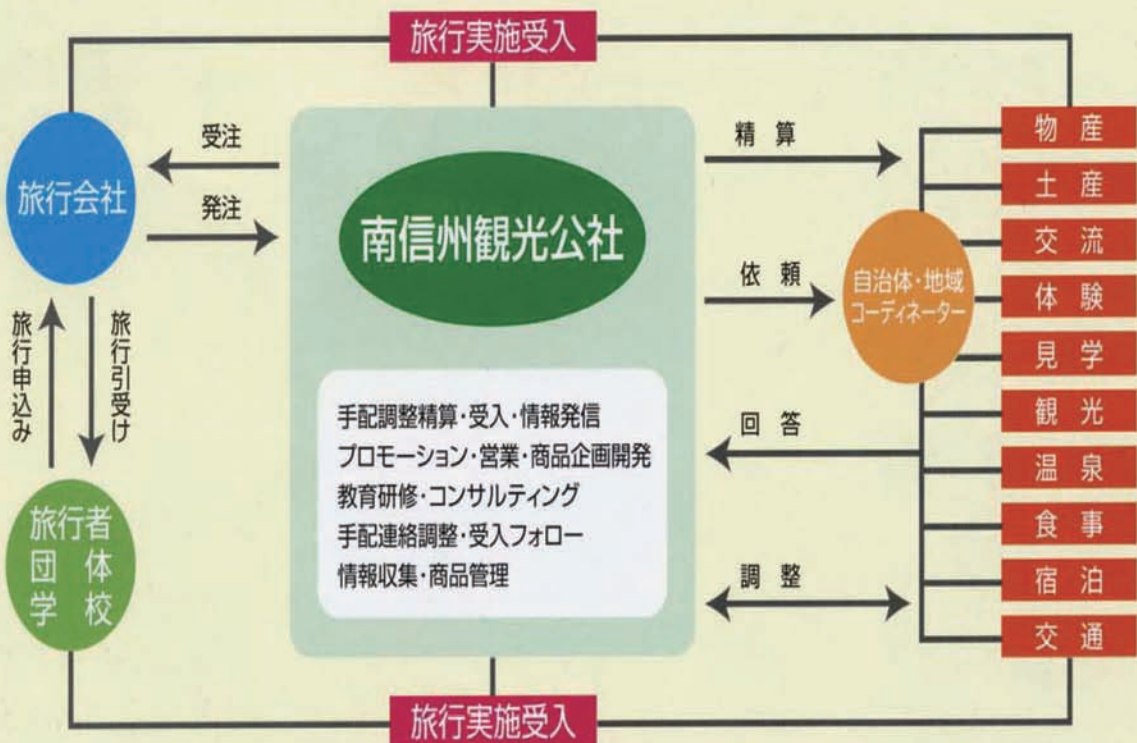
1. 通過型の観光地から滞在型拠点型の観光地づくり(=旅の必然性づくり)を目指し、1995年に飯田市商業観光課が体験教育旅行誘致事業の開始を決定し、1996年から体験教育旅行の受入を始める。
 2. 年々利用団体数が増加していく中で、体験受入先の拡大と事業を継続的に専門性を持って担う窓口組織の必要性が生じてくる。
 3. 2001年1月飯田市をはじめ1市4村及び10企業・団体の出資を受けて体験型観光による南信州広域の地域振興を目指す組織として、(株)南信州観光公社が設立される。2004年に飯田下伊那全18市町村(合併により現在は14)の出資を受ける。
 4. 主な業務内容は体験型教育旅行のセールス、受入・コーディネート。一般旅行者向けの桜・和菓子・トレッキング等に特化した体験型旅行の提案と実施。各地からの視察研修依頼に対しての研修会と相手側実情に即した各種体験や料理提供のコーディネート。
-

2

南信州での体験型観光の受入の推移 (プログラム利用数と宿泊者数)



受入システムについて



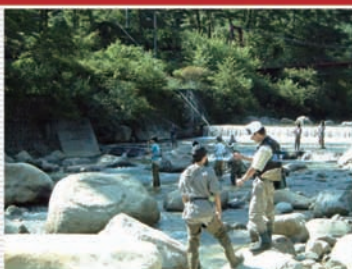
ほんものの体験が目指してきたもの

- ・本物の体験を実現することで、そこに感動が生まれる。
- 地域の人々がインストラクター・受入農家として関わり、普段行っていることをそのまま、訪れた学生に体験させる。そのことを通して、学び、発見、感動が生まれる。瞬間的な驚きではなく、心に染みるまでの時間と交流により、心動かされる感動を目指す。

5

体験プログラムのあり方

～地域の人々が関わり、体験する人が主人公になって歴史、自然、産業、交流、達成感などを感じることができる～



自然の川で5名単位で行う溪流釣り



プロの職人の工房での草木染め体験



少人数での農家民泊



見頃の一本桜を案内する桜守の旅



ガイドとともに冬山の魅力を体験



囲炉裏・釜戸を使いながらの生活

6

まとめ

1. 体験者も受入先もともに高まる体験のあり方を追求する。
2. 地域として譲れない一線を大切にする。
3. 関わる方々が最高の財産であることを忘れない。
4. コーディネート組織としての存在意義を常に意識して行動する。

7

視察研修のお問い合わせ先

(株)南信州観光公社

〒395-0152
長野県飯田市育良町1-2-1
りんごの里内

TEL: 0265-28-1747

FAX: 0265-28-1748

URL <http://www.mstb.jp/>

8